



## 中谷 多哉子

筑波大学大学院

ビジネス科学研究科

准教授

### 要求工学知識体系(REBOK)第1版 解説

—ユーザとベンダの輪となる要求工学実践の指針—

#### プロフィール

東京理科大学理学部応用物理学専攻卒。日本電子計算（株）、富士ゼロックス情報システム（株）を経て、1995/10にSラグーン設立。2001/10より、（有）エス・ラグーン取締役。1994年筑波大学大学院経営政策・科学研究科修了。1995年東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程入学。1998年修了。博士（学術）。2009年より情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学WG主査。2010年より電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究会専門委員長。企業での技術者育成活動を行うと共に、要求獲得、オブジェクト指向モデリング技術の研究を行ってきた。最近では、要求を適切な時期に獲得するための要求獲得計画の立案と監視を目指したPRINCEモデルを提唱し、実プロジェクトの計測データに基づいた手法の開発を行っている。また、現在、筑波大学大学院ビジネス科学研究科において、社会人向けの教育を行うと共に、ソフトウェア工学、要求工学分野で、学生との共同研究を進めている。

#### 講演概要

要求工学知識体系(REBOK: Requirements Engineering Body Of Knowledge)[オールイーブック]第1版が刊行された。REBOKは現場で要求工学を実践するガイドラインとして、要求工学の技術と管理の全体を網羅するように策定された。本講演では、REBOK第1版のポイントをREBOKの著者自らが分かりやすく解説する。まず、REBOKの策定に至る経緯を紹介し、要求工学の基礎、要求の獲得、分析、仕様化、検証・妥当性確認に至る一連の技術と、要求管理の枠組みを解説する。さらに、REBOKを活用するための勘所を紹介する。ソフトウェア開発の生産性と品質の向上、価値の創出と差別化、人材育成にREBOKを活かして頂きたい。